

バクロフェン療法

脳血管障害、脳性麻痺、頭部外傷、無酸素脳症、脊髄損傷、多発性硬化症など、様々な原因で引き起こされる痙縮に対して外科治療を行い、痙縮の緩和を図ります。方法としてはボツリヌス毒素局所注射、選択的脊髄後根切断術、選択的末梢神経縮小術、バクロフェンポンプ(ITB療法)があります。過去の治療経験から、ボツリヌス毒素局所注射とITB療法を主体に治療を行います。

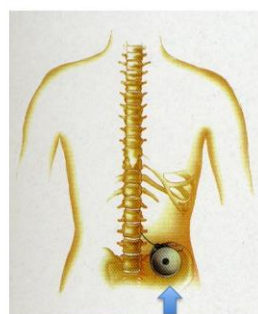
髄腔内バクロフェン療法(ITB)

痙縮
(脳卒中後・脳性麻痺)



写真：GlaxoSmithKline

バクロフェンという薬剤を持
続的に髄腔内投与し、痙縮を
和らげる。



バクロフェンポンプ